

氏名	古谷 ミチヨ
授与した学位	博士
専攻分野の名称	看護学
学位授与番号	博甲第6426号
学位授与の日付	令和 3年 3月 25日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第4条第1項該当)
学位論文の題目	Gender Expression among Transgender Women in Japan: Support Is Needed to Improve Social Passing as a Woman (トランスジェンダー女性の性別表現：パス度向上のための支援ニーズ)
論文審査委員	教授 谷垣 静子 教授 齋藤 信也 教授 森 恵子

学位論文内容の要旨

トランスジェンダー女性 (TW) にとって性別表現は社会的性別移行を進める上で重要である。本研究では、TW当事者54名を対象に、女性として通用する度合い (パス度) の向上に必要と考えられる性別表現の実態やそれに対する支援ニーズ、それらに影響する背景因子について分析し、支援のあり方を検討した。女性としての性別表現ニーズは高率であったが、ホルモン療法による体型の変化や肥満への対応等については実践や継続が比較的困難であった。一方、皮膚や髪のリメイク等は比較的実践しやすく継続しやすかった。パス度向上のための支援を受けている割合は低率で、ニーズが満たされているとは言い難かった。ホルモン療法や性別適合手術、女性としての生活は、女性としての性別表現の実践度合いや支援ニーズを高める因子となっていた。ジェンダー支援の専門職はTW当事者のパス度が向上するよう栄養指導や発声等の専門家と協働し、支援体制を整える必要がある。

論文審査結果の要旨

本論文は、トランスジェンダー女性のパス度向上のための生活支援ニーズについて明らかにした論考である。トランスジェンダー女性54名を対象に自記式質問紙調査にてデータを収集した。その結果、「皮膚・髪のリメイク」「立ち振るまい」「公共施設等の使用」のニーズが高く、支援ニーズを受けた経験は、SRS施行者、女性としての生活をフルタイムで送っている者は、SRSを受けていない、あるいはフルタイムの生活を送っていない者に比べ有意に支援を受けていた。

本研究の新規性は、トランスジェンダー女性のパス度に注目した点である。

しかながら、対象者の選定、研究の問いを解決するための研究方法の選択について吟味が十分ではなかった。今後、今回の研究の限界を踏まえた研究が期待される。

以上、課題を含みつつも、本論文は、トランスジェンダー研究の一環として第一歩を踏み出すことができた。よって、岡山大学大学院保健学研究科博士後期課程の博士号（看護学）に値するという結論に達したので報告する。